

福知山公立大学 2019年度 卒業式・学位授与式 式辞

本日、ここに福知山公立大学を卒業し学士の学位を取得された57名のみなさん、おめでとうございます。

例年なら、ここでご出席のご家族ご親族の方々にもお慶びを申し上げるのですが、本年は新型コロナウイルス感染症の日本も含む世界的な大流行のため、ご家族・ご親族のご出席をお断りせざるをえず、ご来賓もお招きしないで、卒業生と在籍教職員だけの異例の卒業式・学位授与式となりました。大変残念ですがご了解ください。ただし、本学の設置者、福知山市の大橋一夫市長様からはご祝辞を賜ります。人口8万足らずのこの福知山という地域にも感染者が出て、その対応に全力を尽くしておられる最中であるにもかかわらず、お越しくくださったことに厚く御礼申し上げます。

さて、本年度の卒業生のみなさんは本学が公立大学として出発した最初の入学生でした。みなさんが本日卒業し学士の学位を取得してくれたことは、本学が開学して4年間という完成年次を無事に迎えたことでもあり、私たちにも大きな喜びです。

みなさんは、旧成美大学から公立大学へ転換したばかりで、入学当初は予想外のことに遭遇され、ご苦勞をかけたと思います。

みなさんはもう忘れていたかも知れませんが、私は開学にあたり「荒海に乗り出す小舟のような気持ちだが、この大学づくりは何としてもやり遂げなければならない」と述べ、同時に入学した新入生のみなさんも「その乗組員であり、大学づくりの一員なのです」と言い、「他の大学でなかなか経験できないことでもあり、みなさんへの期待はきわめて大きい」とも申しました。

それに対して、みなさんは不安や懸念を乗り越えて十分に期待に応えてくれました。本当に嬉しく、みなさんの成長に感激し、ご努力に敬意を表します。

そのうえでみなさんに最後のお願いと期待を申します。

本日の異例の卒業式・学位授与式となった現在の日本と世界の状況の中で、みなさんが不断に感じていることと関係したことです。

新型コロナウイルス感染症の日本も含む世界的な大流行の中で、みなさんは時に不安を募らせ、日々さまざまな情報を追い求めていると思います。関連する情報は、大量に驚くほどの速さで更新されています。不安に苛まれると人間はより多くの情報を追い求め勝ちになります。お仕舞には情報に踊らされてしまいかねません。それだけではなく、自分が得た情報をいち早く他の人びとに伝えよう

とすることもあるかも知れません。しかし、みなさんはここで落ち着いてください。

みなさんが手にした情報には明確な根拠が示されているか、誰が誰に向けて何のために発している情報なのか、その情報から得られる結果は本当に現実の困難の克服や課題の解決に役立ち活かせるものなのか等々、よく考えてください。

情報の正しさが判断できないとき、情報を追うことを一度止めてください。余程緊急でない限り、数日間経って整理された情報を得ればそれで十分な場合もあります。

情報を誰にどう伝えるかについても一度立ち止まってよく考えてください。

仮にこれは正確な情報だと判断しても、直ぐに自分が多くの人びとに伝えなければならないのか。情報を広げることに意味があるのか。それは自分がなすべき事柄なのかどうか等々、情報を伝えることへの注意を怠らないでほしいものです。

組織的活動にとって情報の共有は確かに必要で不可欠です。権力や社会的力を持つ者が情報を独占し、秘匿し、伝達を統制し、操作すること等は決して許してはなりません。しかし、むやみな情報の拡散は社会に不要な不安と混乱をもたらす場合もあるのです。

急激に進み拡大する情報社会の中でみなさんはこれから暮らし生きていきます。情報に振り回されてはなりません。不用意な情報発信で他の人びとに被害を与えてもなりません。情報の取得と発信に細心の注意を払うことは、最終的にはみなさん自身の身を守るためにも不可欠なのです。

情報化社会の中で生き抜くために、しっかりした自分の基準を持つことが何よりも大事です。確かな思想を持ち、それに基づいた判断力を備えてください。

みなさんがこの大学で学んだことの最も重要な事柄の一つはそれだったに違いないと信じています。信念を持って、希望に満ちた人生を力強く歩んでください。期待しています。

それではみなさん、お元気で。ごきげんよう。

2020年3月23日 福知山公立大学学長 井口和起